

## 「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

### 【地域別】西砂学習館【概要】

日時：令和6年3月2日（土）

10時30分～11時30分

場所：西砂学習館

#### 1 開会の挨拶

##### （市長）

皆様、おはようございます。立川市長の酒井でございます。

本日は「市長と語ろう！」、また、タウンミーティングに、このように多くの皆様方、お越しをいただきましてありがとうございます。私も昨年の9月の8日に、立川市では第23代目となる市長に就任をいたしました。もう少しで半年が経つという市長1年生でございますけれども、地域の皆様方の様々な御意見をいろいろとお聞きをさせていただきながら、立川の市政の運営にあたっていきたいというふうに思っております。

私自身、選挙の際に、市民に寄り添う立川市政、優しい社会環境を、ぜひともこの立川市に広げていきたい、そのことを申し上げました。また、連日いろいろと、市長への手紙という形で広聴はがきが届きますけれども、全てに目を通させていただいております。中には私の理解力では理解し難い、そういったお話もあつたりするんですけども、地域の課題で、それはそうだよなという部分については、担当の課長さんに、まずは現地を確認をして、そのとおりであるならば、速やかに対応策を考えてほしいということ、付箋ばっか貼る市長だなどというふうに思われているみたいですが、そういった形で対応をさせていただいております。

私、思いがあることで質問をされると話が長うございますので、その点には、限られた時間でございますので注意をしながら、より多くの皆様方から御意見を賜ればと存じます。今日は限られた時間ではございますけれども、ぜひともよろしく願いいたします。

まず冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

#### 2 意見交換会

##### （司会）

それでは御意見のある方、挙手をお願いいたします。

ありがとうございます。

それでは、まずはそちらの方、お願いいたします。

##### （参加者）

私たちは知的障害者と配偶者、当事者などの活動をしています。

障害当事者の車椅子の方とともに市民に寄り添う立川市、お花香る緑豊かな立川市、地場産業の育成、その他を願って活動しています。各部署の方々にはお世話になっております。心から感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。

下記について御検討、御理解、御協力をお願いいたします。立川市内の剪定枝アートの活動をしています。年2回程度の木工学習会をしようと呼びかけました。仲間や立川市社会福祉協議会さんなどと話し合っているうちに、立川市内の剪定枝のおもちゃ館、アート館、

インクルーシブの理念を含むアート工房の創設と夢が広がりました。地場産業の育成にもなればと思っています。一緒に作り、一緒に遊ぶ交流の場、障害者、高齢者、若者、子どもたちの交流の場、世代間交流の場、社会貢献の場の拡充や、障害者や高齢者、若者たちの働く場の拡充にもなればと思います。立川市内から出た剪定枝の提供、販売、販売路の充実、選定、植林なども行って、緑豊かな循環型のまちを進めてください。

知的障害者の方全般を、医療費、薬代やガソリン券、旅行の付添い者としての補助金の対象としてください。まずは非課税世帯の条件付も検討ください。相談支援の充実をお願いします。障害福祉課に連絡し、あんしんセンターに連絡し、また、障害福祉課に連絡と困りました。まずはしっかりと相談に乗っていただけることを願っています。まずは聞く姿勢を見せてください。

立川市八ヶ岳山荘の改善をお願いします。洋室を幾つか設置、宿泊室の出入口を広げにし、車椅子を置きやすく、脱衣場にスロープ設置、障害者用駐車場を玄関入り口近くに設置、エレベーターの設置、をお願いします。

市内の公衆トイレ、バリアフリートイレなどにウォシュレット、オニ公園のトイレにおむつ替え台、音声案内、公園などに授乳室、西国立駅前の公園に点字ブロックの設置充実をお願いします。

立川市職員の育成研修に手話学習会を取り入れていただき、職員の方々には手話が少し、日常会話程度ならできるなどと札などをつけていただければと。聴覚障害のある方も、より安心して窓口相談その他ができると思います。

小規模の飲食店にスロープの貸出し制度や、バリアフリー工事への補助事業の創設、みのわ通りからの歩道やモノレール、柴崎体育館駅から駐輪場などに下る歩道、その他の歩道を、車椅子生活者が安心して使えるように改善してください。

公園にオフグリッド電源の設置充実、園内等の電源にしたり、緊急時や日常的にもスマホの充電できる公園にしていいただければと思います。

大型店舗の各フロアにバリアフリートイレの設置充実を、立川市からもお願いしてください。

インクルーシブ公園、障害のある人もない人も遊べる公園遊具の設置、車椅子のままでも出入りできて、車椅子のままでも乗って楽しめる遊具の設置充実など、誰でも気軽に使える公園の整備を進めてください。子どもたちが伸び伸び遊べる公園、プレイパーク公園設置、季節に花火ができる、火おこしなどの体験のできる公園使用ルールに改善ください。

立川市道の整備充実、住民の要望もあり、緑川第一公園に接している市道、公園のブロックまでアスファルトにしていいただくよう、以前から要望しています。素材は水が地下に浸透し、熱を持たないものを研究してください。市道全般も改善してください。

切り株の撤去について担当部署に聞きました。撤去の予定ですが、大規模な……。

(市長)

すいません、ちょっとごめんなさい。いろいろと御要望がたくさんあるようですので。

(参加者)

すいません。

(市長)

ぜひその紙を後でお渡しをいただければ、多分ほかの方も御質問したいと思いますので、後で市のほうから回答させていただくものについては回答させていただきたいと思います。

途中、遮っちゃってごめんなさい。

(参加者)

結構です。

(市長)

皆さんとの公平性がございますので。

今いただいた質問の中で、初めに剪定枝についてのお話がありました。剪定枝等々を、まず立川市でどれぐらいのものが出ているのかということなどを、立川市としても調べさせていただいて、それがアートという形で、どういう形で生かしていけるのか。また、今お求めのことが、おもちゃ館とかアート館ということでしたけれども、市議会の中でも、立川にも美術館をとというような御提案も先日いただいたところなんですけど、いろいろと立川市が今後、施設の再編整備等を行っていく中で、どういった市民の皆さんにとって必要な施設を整備をしていくのかという中で、検討させていただければなというふうに思っております。

また、いろいろと付添い等の問題についてお話がございましたけれども、今年度の予算、市議会のほうにもお願い、提案をしておりますけれども、来年度、いろいろな障害のある方の団体から一番多くの要望があったのが、移動支援についての適用の範囲を拡充をしてほしいという御要望が、恐らく全ての障害のある方々からあったと思いますが、その点については、まず初めに、私の公約の一つでもございますので、移動支援の拡充を行うということと、それに向けてのヘルパーさんの確保という観点から、他市との相場の部分に合わせるような施策の展開をさせていただいております。

また、八ヶ岳山荘について御提案をいただいたんですけども、近年、近隣他市でも八ヶ岳に山荘を持っていたところが撤退をしているということもあります。老朽化等もある中で、立川市として、八ヶ岳山荘をこのまま維持をしていくことがよいかどうかという部分についても、併せて検討課題とさせていただきたいと思いますがゆえに、大変申し訳ございません、今の山荘にスロープやエレベーターをとという部分については、「すぐにはやりません」ということは言えない中で、全体として、八ヶ岳山荘の市民の皆様方の利用にどのように供していくのか、ほかにもっといい方法があるのかなのかという部分も、併せて考えていきたいというふうに思っております。

また、市内トイレのバリアフリートイレ等については、来年度予算の中では、錦中央公園には、「誰でもトイレ」を設置していくということで、また、併せて、柴崎市民体育館が今度改修工事に入ります。この中ではトイレ等の問題も、そういったバリアフリー化等々を進めていきたいというふうに思っております。

また、市の職員に手話をというお話でございましたけれども、これもさっきの市議会の中で、公明党の議員さんでしたかね、立川市としても手話条例をというお話がございました。私も都議会議員時代に、同じ会派の議員のメンバーで、聴覚障害を生まれながらある方がいらっしゃいました。そういった関係で、都議会の中では超党派で、手話言語条例ということが制定をされて、ただ、その一方で手話を使わない、そういった聴覚障害者の方もいらっしゃいますので、手話だけではなくて、今、UDトークだとか、いろいろとそういった機器等もございますので、いかに障害のある方もコミュニケーションを良好に図っていけるのかという部分に視点を置いて、取組を進めていきたいなというふうに思っております。

また、オフグリッド、公園の電源、これはちょっと御提案なんですけれども、誰でも使われてしまうと、電気代どこまで払うのかという問題もあるのかなというふうに思っております。さらに、市道の熱を持たないということのアスファルト、これについてはいろいろと、そういった素材がどういうふうにあって、実際に立川市がそういったアスファルトの舗装をするときに、どれぐらいのコストが加算をするのかという部分等を勘案をしながら、今後の研究課題とさせていただきたいと思っております。

最後の質問につきましては、大変申し訳ございませんが、ペーパーをお持ちのようですので、担当のほうにお渡しをいただければ後ほど御回答させていただければと存じます。

以上でございます。

(参加者)

ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございます。一人でも多くの方に御発言をしていただきたいので、できましたら簡潔に、皆様、御発言お願いいたします。

それでは、そちらの方、お願いいたします。

(参加者)

今までこんな会に出たことはないんですけれども、広報を見ましたので、事前申込みじゃないということで、これはちょっと違うかもしれないと思って、市長への手紙も書いたことがありますけれども、何の音沙汰もなかったのです。

(市長)

そうですか。

(参加者)

いえいえ、今回じゃなくて前です、以前。

(市長)

前にね。

(参加者)

はい、以前のことで。なので、こういう会に出席するのは初めてでございます。よろしく申し上げます。

(市長)

よろしく申し上げます。

(参加者)

私はうちにひきこもりの息子がいます。今現在27歳、ひきこもり歴7年目でございます。5年前に、国立市って、「ひきこもり大学 家族学部 in くにたち」という取組がございまして、国立市で連続学習会を1年間したんです。そこで勉強させていただいて、2018年に立川市で、「ゆんたく・立川地域家族会」というのを立ち上げました。それはKHJという全国ひきこもり家族会連合会の皆様の支援を受けながら、立川で地域家族会の一つとして立ち上げて、今まで私が世話人として何とかやってきております。

立川でも3年前にアンケートを、そのときには管轄が青少年課でしたけれども、青少年課でひきこもりのアンケートを実施していますけれども、本当の実態把握というのはまだまだされていないというのが実情だと思うんです。今は地域福祉課のほうでひきこもり等の支援の窓口となって、本当に皆さんにお世話になっておりますけれども、この前、1月の

27日に、行政機関によるひきこもり支援シンポジウムというのに参加しました、KHJの主催の。そこには豊島区、荒川区、板橋区、八王子市、国立市、そして立川市も参加しました。

立川市の地域包括ケア推進係長がシンポジウムで、立川の重層的支援体制についての話とか、それから、うちの「ゆんたく・立川の家族会」と連携してやっているという報告もしていただきました。立川からそのときに、家族会の関連のメンバー7人で参加させていただいて、いろんな学習もさせていただいたところです。

これから私が、こうなっていったらいいなと思うことを3点言わせていただきます。シンポジウムするときにもお聞きしたんですけれども、豊島区でも、各市が、国や都のひきこもり支援に関する方針が大きく変換してきておりますので、各市もいろんな新しい取組をやっております。その中で豊島区が、ひきこもり支援に特化した広報を発行したという話を聞きました。そして、ひきこもりの支援の窓口の明確化というかな、今の立川市では地域福祉課というふうになってはいますが、ひきこもりの相談窓口というふうには打ち出していないですね。だから分かりにくいんです。だからひきこもりの相談窓口ということを明確化して、専門の特化した広報をぜひ発行していただきたい。

そして、豊島区はそういう専門の広報を発行したことにより、相談件数が2,000件増えたそうです。立川も顕在化はしてないけれども、きっと3,000人以上はひきこもりの人がいるんじゃないかというふうに推定されています。そして今、「ゆんたく・立川地域家族会」でも、月1回総合福祉センターで定例会やっているんですけれども、あそこ、行くのが大変なんです。それで、立川市って広いので、いろんな、砂川とか、この辺が、あそこまで行くのが結構大変なんです。

木曜日も出張家族会ということで、年に何回か、地域福祉コーディネーターの方とか包括支援センターの方とかと一緒に、この辺ではひきこもりの人がいるらしいぞという情報をキャッチするために、一緒に出張家族会というものを開いております。先日も若葉会館で開かせていただいたんですけれども、対象者はいるんですけれども、そこに出てこないんです。なぜかという、自分の子育ての失敗があるから、そんな失敗した恥ずかしいようなことを人様の前でなんか話ができないというんです。

そういうふうに、ひきこもりは恥だ、それから親の責任だというふうに思い込んで、それは親の責任、もちろんありますよ。だけれども、それだけではない、本人の気質、それから社会状況とか、いろんな様々な要因があって、一言では言えませんが、ひきこもりを抱えている御家族は自分のせいだというふうに悩んでいます。だから、いくら相談窓口がありますよといっても、そんな恥ずかしいことをみんなに言えないと思っていられる方が大変多いです。そして、家族会のほうでも高齢化が進行してまして、8050どころではない、9060に近づいてきている。そして、地域包括支援センターの方たちが訪問に行くと、その奥にどうもひきこもりの人がいるらしいという情報をキャッチしたりするんです。けれど、それを、管轄が違うからどうにもできないみたいなのところがいまだあります。

そして、ほかの自治体では、ひきこもりの実態を正確につかむために、地域包括支援センターの方とか、民生委員の方とか、それから、そういう地域に密着した方たちに、ここにいるよという実数を把握してもらって、それを積み上げて、実態調査というのをやっているところもあります。だから、もう一度実態調査をしていただきたいというのが一つ。

もう一つですね。それから、国立で私が1年間勉強させていただいたのは、国立市の各部署の職員が集まって、どうもひきこもりという問題があるらしいぞということが職員の間で話題になって、庁内連絡会を発足したそうです。それが契機となって、社会福祉協議会に予算をつけて、委託をして、そしてKHJの人を1年間派遣をして、家族会を育てるという連続講座をやっていたんです。そこに私は参加させていただいた。

それで、中には、自分の市には知られたくないという人がいるんです。だから広域でぜひやっていただきたい。それが、うちの「ゆんたく・立川地域家族会」でも、初めは市外の人が多かったんです。そうしたら全然振り向いてくれない。市の対応もけんもほろろ。それで、社会福祉協議会のほうも、市外者が多い家族会は振り向いてくれなかったんです。なるべく市の在住者の会員を増やそうと思って、いろいろ努力はしてきました。今は、定例的に家族会に参加してくるのは5、6人です。あとはLINEでつながっている人たちが十何人にいますけれども、ただ、その人たちは高齢化だったり、足が悪かったりとか、いろんなことで会場に足を運べないけれども、情報だけはもらっているという人がいます。だからそういうふうに、連続講座というかな、そういうのもぜひやってほしい、市の予算というふうに思っています。

もう一つは、あと、私は「にこにこサロン」とか、「スマイルキッチン」とか、居場所の活動に少し関わっています。「にこにこサロン」には4年ぐらい関わっていたんですけども、あそこは、「BASE☆298」とか「スマイルキッチン」とかはすごく、見ただけですてきなところだな、ちょっと行ってみたいなという気がするんですけども、「にこにこサロン」は一番町市営住宅の一番下の集会所になっているので、場所としての全く魅力がないんです。だから来る方もほとんどいない。一番町市営住宅の方がちょっと来るぐらい。あと地域包括支援センターの職員と一緒に連れてこられた方が参加するみたいな、そんな場所になっていて、私はひきこもりの家族会をそこでやったりとか、そういう人たちが来るような居場所にと関わってきたんですけども、この場所じゃ駄目だなと思って、今は関わるのをやめました。そんな状況もあるので、居場所に人員と、それから予算をもっとつけてほしい。それがお願いします。

(司会)

ありがとうございます。

(参加者)

長くなりました、すいません。よろしくをお願いします。

(司会)

市長、お願いいたします。

(市長)

ありがとうございます。ひきこもり、特に、お子さんはまだ若年者、若者世代になると思いますけれども、中高年のひきこもりの問題というのは日本全体の社会問題として捉えられていて、その原因、発端がどこにあるのかというのも、多分十人十色なのかなと。ただ、その問題はやはり社会にとっても、そういった方たちがもっと積極的に出てきてもらえるようにしてほしいし、また、親御さんにとっては、それこそ今お話した、8050どころか9060みたいな話になって、自分自身が人生を終えるときに、自分の子どもが、あと、どうなるんだ、これはひきこもりの問題だけではなくて、障害のあるお子さんを抱えている親御さんの、親亡き後のことというのは大変不安だと思うんです。

ですから、やはりひきこもりの問題と、障害のある方も同じなんですけれども、当事者に対する支援の仕方と、また、それを、ふだん一緒に生活をされている、そういった親の立場での負担というものを、どういうふうに軽減をしていけるのかということとは大きな課題だと思っていて、がゆえに、私の公約の中でも示させていただきました。

来年度の取組としては、先ほどもお話を申しあげていただきましたけれども、重層的支援の中で福祉のアンテナショップというものを、これだけで十分なのかなというのは、私の中でもまだ、これで全てオーケーというふうには全く考えていなくて、今、担当の部や課のほうで、「多機能拠点（仮称）地域福祉アンテナショップ」というものを造って、まずそこでやってみるとい話なので、これで一旦様子を見てみたいと思っています。その上で、当然、十分ではないということ等々、実態把握をした上で、さらに何ができるのかということについて掘り下げていきたいというふうに思っております。先ほどお話あったとおり、豊島区、国立のお話でしたっけ。

（参加者）

豊島区です。

（市長）

豊島区のお話の中で、やはり立川市もちょっと縦割り行政的なところがあって、市の職員の中にも、今までの縦割り行政を今まではやってきたんだけど、本当は横の連携を取らなくちゃいけないんだなというふうに思っている、そういった担当の課長さんとかも多くいらっしゃいますので、4月以降、組織改編を行っていく中で、より相互間の連携が取れるように、また、民生・児童委員の方々という話になると、その方たちにお願いをしなくちゃいけないということもあって、市の中だけでは解決ができない話もございますけれども、社会全体の中で、また、地域包括、どちらかというところと高齢者へのところと目が行きがちで、実際に今の体制ではなかなか限界もあるのかなとは思っているんですけども、地域包括支援事業の中で、高齢者あるいは障害者、また、子育て世代等々、様々な面での地域の見守りであったり、あるいは支援の拠点にしていけたらなというふうに思っています。

あと、広報について、相談窓口がどうなのか分からないと。今の話の流れの中では、地域福祉アンテナショップを御紹介をするのかなということにはなろうかと思いますが、広報の仕方については僕もいろいろと思うところがございまして、市の広報に載せただけだとほとんど埋もれちゃって、何が何だか分からないじゃないですか。一つの取組として昨年やらせていただいたのは、いろいろと市がパブリックコメントを求めていますというのが広報に載るんです。でも、そんなの見ていないし、あと、ホームページ見てくださいといっても、見る人ってよっぽど関心のある人じゃないと見ないじゃないですか。であるならば、あの手この手をいろいろと考えて、より多くの市民の方の耳目に触れるような形にしたいなということで、試しに職員にYouTubeで解説動画を、インデックスの部分だけでも作ってみて、少し目先をいろいろと、SNS等も使って発信をしていくということをトライアルでやらせていただきました。

今後、これ、まだ僕の中で思っているだけで、市の職員にも言ってないんですけども、4月以降、今のひきこもりのことだけではなくて、市民の皆さんって、何か困ったことがあったときに、市役所のどこの窓口に行ったらいいのかなということが、よくイメージングできないんじゃないのかなというふうに僕の中では思っているんです。

そういった状況の中で、広報紙は広報紙でいろいろと変えていこうと思っているんですが、例えばひきこもり、うちの子どもがひきこもっちゃったのということを設定をして、そういう場合にはどこにお願いに、相談に行けばいいのか。子どものことについてお願いだとかっちなよね、私自身の悩みだったらこっちだよよねというところで、市の窓口、こういうところで相談受けますよみたいなことを、ライフステージのそれぞれの、例えば妊娠したときにはどういうふうなところに行けばいいのか、子どもが生まれて、こうしたときはどうしたら、自分の親が介護状態になったときにはどこに行ったらいいのかというのを、ストーリー仕立てで、その方の生活の切り口からどういうふうにいったらいいのかというのを。

僕自身が、最終的にお金をあんまりかけないようにやりたいので、僕がスマホを持ってよくやっているんですけども、紹介動画を作って、こんな人がいたときにはここに行って、窓口、こういうふうにして、ここで相談をして、これでも解決……これ以外の部分については、次はこっちのほうの窓口で行くところなんですみたいなことを、地道な作業にはなるんですけども、いろんな市民の皆さんがお困りになったときのことをイメージングをして、リスト化をして、それに向けて、立川市がどういうふうなサービスを行っているのかということ、生活感の中で実感をしていただけるような広報の仕方を、僕はこれから考えていきたいなというのを実は思っているんです。

これも組織が新しく4月以降スタートをしたら、課長さんたちに協力してよって、自己完結型でやってもいいからさというふうにも考えているので、先ほどの分かりやすい広報、どこに行ったらいいかという、また、社会の中で、確かにおっしゃるように、自分のまちに知られたくないし、例えばこういうところで今、すごく僕、勇気あると思うんですよ。私がこういう環境にあるということ、いろんな方がいらっしゃるわけじゃないですか、そういった中で言うのってなかなか言いづらい話だと思いますので、ただ、国立さんとかと、例えば連携をしていくということもありかなと。

ただ、そのときには、国立市さんが行っているような相談だとか、そういった事業のレベルと、立川市のレベルも合わせてからでないと、相互に連携というのはなかなかしづらいのかなというふうにも思うんです。そういった中、国立市さんだけではなく、昭島市さんとか、近隣の市の市長さんとも話をしながら、相互連携で、当該居住地に相談しにくいところはクロスでそれぞれ、立川の人は国立に行ってもいいですよって、国立市としては立川市で受けましょうと、お互いさまの中でうまくそういった連携が図っていけるようなことも、これは相手方のいる話なので、うちがやりたいといっても向こうが嫌だと言われちゃうと、なかなかうまくいかないと思うんですけども、そういった、なかなかセンシティブな問題についての取扱い方という部分について、いろいろと研究をしていきたいなというふうに思っております。

今日のところはこんな感じでよろしいでしょうか。

(参加者)

ありがとうございます。

(市長)

これ以上、まだ話したいんですけども、話がどんどん長くなりますので。

(司会)

ありがとうございます。

改めてのお願いになりますが、お一人でも多くの方に御発言いただきたいので、できましたら簡潔に、そして、できましたらお一人様一つの御質問、御提案でお願いいたします。

それでは、挙手お願いいたします。

では1列目の方、お願いいたします。

**(参加者)**

今日はありがとうございます。本日は私と立川市で地域の店の開業とかデザインをされている方と一緒に伺いました。

私からは一点、立川市内の、例えば旧若葉小学校とか、子ども未来センターとか、そういった施設でイベント運営を、もうちょっとしやすくできたらうれしいなというふうに思っています。

具体的に言うと、例えば旧若葉小で、私たち民間人がイベントを開催できるんですけども、そのときに、現在、椅子というのが学校の中で用意されているんですけども、それに加えてテーブルとかテントとか、そういった備品もあらかじめ準備されていると、それをぱぱっと出してイベント運営というふうに、結構簡単にできやすくなるので、そこは一つ実現できたらうれしいなと思っております。あと、トイレの詰まりがあるというお話をいただいている、私たち、この後下見に行くんですけども、そこら辺で運営しやすくなったらうれしいなと思っているのと、何か補足とか。

**(参加者)**

よろしく申し上げます。自分自身もイベントとか、市内でまちイベントと言われるイベントを幾つか開催しているわけですが、今回のイベントなんかも仲間うちでやるんです。会場によって本当、備品とかが非常にないという、足りないんです。そういった場合に、そのとき使っていないようなほかの施設、例えば子ども未来センターからテントを借りてくるとか、ほかのどこからテーブル借りてくるとかして、市全体でシェアできるようなシステムがあると、非常にイベントをすんなりやりやすいかなということがあります。すいません。

**(市長)**

ありがとうございます。旧若葉小学校から、切り口で入っていただいたんですけども、市内、例えばサンサンロード等々でイベントをするときには、テント等の貸出しも近くに保管をしているということがございます。ただ、旧若葉小学校に関しては、今、暫定的にという形で、旧多摩川小学校の「たまがわ・みらいパーク」があるところもそうなんですけれども、今後地域の方とも、施設の利用の在り方だとか、そういった部分については、どういうふうにしていくのかということを考えていかなくちゃいけないのかなど。今ある施設を取りあえず暫定的に使っていただくということなので、旧若葉小学校単体で、トイレとか何とかというお話もいただいたんですが、あくまでも今、暫定的に使っているだけの話ですから、ここにどういうふうに、コンセプトとして地域の方にどうするのかということを考えなくちゃいけないのか、それとも、もっと別の広域的な使い方のほうがいいのか。

あるいは今、いろいろと立川市でも、公共施設の再編とか、いろんなことを計画はしているんですけども、今、物価の高騰だとか、資材価格だけではなくて、人件費だとかということで入札不調が相次いでいて、小学校の中規模改修であるとか、あるいは建て替えだとかというときに不調になってしまうと、その後さらに積算をすると、例えば私の母校

が今、一応、計画で入札不調になっちゃったり、初め48億だったのが60億予算を見積もらなくちゃいけないとかというところで、財政的にはかなり、立川市の施設の改修というものには多額のお金がかかってくる。

現計画のまま、そのまま突っ走っていくと、多分僕は財政破綻するんじゃないかなというふうに危惧をしていて、健全な財政をいかに保っていくのかという観点からいうと、使わなくなった施設を売却するというのも、時には考えなくちゃいけないんじゃないのかなと。それで、今ある施設の建て替えの資金に充てるとか、いろんな、選択肢に関しては予断を挟まずに、フリーにいろいろ考えていくべきかなというふうに思っているんです。がゆえに、旧若葉小学校という単体のお話になると、現状のままでごめんなさいという話なんです。

最後に、御提案をいただいた備品等の有効活用というものに関しては、これは何かうまくいシステムできたら、それはそうだよなって、今お話聞いている、ずっと備品しまっただけで、使っていないというのはもったいないなと。ただ、その管理だとか保管の仕方、また、戻したときの、ちゃんと戻しているかどうかとかというチェックという部分の仕組みを、どういうふうに構築をしなくちゃいけないのかということはあると思うので、僕の中では今の御提案、そりゃそうだよなという話で受け止めさせていただきましたので、今後庁内の中でもいろいろと議論させていただければというふうに思っております。

(参加者)

ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございます。

それでは一番後ろの方、お願いいたします。

(参加者)

いつもお世話になっております。市長は福祉に力を入れて、住民本意の行政をされていると思います。今回も公共料金の給付金の通知をいただきまして、非常に感謝しているところでございます。

私のほうからまちづくりについてお話をお伺いしたいんですが、JR立川駅の北・南のまちづくりは一定程度終わったという状況の中で、西武拝島線沿線、特に武蔵砂川駅、それから西武立川駅の周辺のまちづくりについてなんですが、司会者の方からも地域づくりという最初のお話があったように、この西武立川駅、南口につきましては開発されて、ヤオコーもできていると。でもヤオコー、昭島ですから、立川市ではないんです。そういったところで、西武立川駅の北口、第一種低層住居専用地域ということで、コンビニも建たないという状況がございます。

その中で、かつていろいろ区画整理等々、計画がなされて、今、凍結という状況については、皆さん、市の方も含めていろいろ御努力されたという経緯があると思うんですが、今後、やはり地域の拠点としての西武立川駅、このままでいいのかなという疑問があるので、その辺の市長のお考えと、特に地域の方々が努力された場合、先ほど冒頭にも、長期総合計画の改定というお話ありましたけれども、それに伴って当然、都市計画マスタープランも改定されるという状況の中で、その辺の考え方が後退しないようにしていただきたいというのと、まちづくりの、特に北口の、市長の考え方をぜひお聞かせいただきたいということでございます。

## (市長)

ありがとうございます。具体的には西武立川駅の北口について、南北の自由通路ができて、昔と比べると格段に変わったなという。踏切のところからずっと奥のほうに入っていかなくちやいけなくなっていたところが、あれだけ南側のほうは発展をし、また、北口からもアクセスしやすくなったという部分については、これはすごく、僕も市議会議員から始まって、30年ぐらい立川で政治活動しておりますけれども、昔に比べると大分よくなったなと。

そういった中で、僕自身とてもフラットに考えていて、北口、確かにおっしゃるとおり、コンビニ一つもできないという用途地域の関係等もあろうかと思っておりますけれども、地元の方からそういう御要望とかがあって、何かするときって、いいという人と、いやいやという方って両方いらっしゃるじゃないですか。そこら辺のコンセンサスが得られれば、駅前開発という面でいうと、武蔵砂川駅の北口についてはロータリーができて、北への道路も今、これからどんどん整備をしていって、来年度の予算の中でも下水道と雨水管の埋設等の予定があって、駅前にはちゃんとコンビニもあってという、あまりにも駐輪場しかないというのは寂し過ぎるよなという思いもあるので、その部分については、ぜひ地域の方ともいろいろとお話をさせていただいて、どういうふうなまちにしていきたいのかという部分で、せめてコンビニぐらいはみたいな話があれば、用途地域だとか、地域計画の見直し等々もやっていってもいいんじゃないのかなというふうに思っています。

この間、七中の中学2年生の女子生徒2人が、読売新聞さんの記者体験で市長に取材に来るということがありまして、立川駅の周辺はあんなにすごくなっているのに、私たちのほうはとっても寂しいというお話をいただいたんです。そのときに僕は、その子どもたちに何とお答えしようかなと思ったときに、今お話ししたように、コンビニだとか何とかって、あと、暗くなっちゃって危険な場所だとか、そういったところは何とかしていかなくちやいけななと思いつつも、この西砂とか一番町の地域が立川駅の駅前と同じようになる必要があるのかなと思うと、僕はちょっと違うと、僕は何となく思っています。

立川って、立川駅周辺のあいつた商業地域と住宅地域と、さらにまた都市農業という形で砂川エリアの農地があり、また、さらには国営昭和記念公園という、ほかからも来る緑があふれる部分があって、そういったことがベストミックスをしているのがいいまちだと思っていて、少なくとも制度的には、こちらの人たちが立川市の行政サービスを利用する上で不自由を感じないような、バスルートの問題だとか、いろいろとあると思います。

そういった部分については改善をしていくべきだけれども、何が何でも開発をするんだみたいな話になってしまうと、この地域でこれから大きく問題になる、G L Pの昭和の森のところ、今後トラックとかがたくさん通るんじゃないかということで、昭島市長とも、なかなか昭島の地域の中なので止められないという、もう既に、後から法律変えるわけにもいかないので、ただ、交通環境をどういうふうにしていくのかということでは、昭島市と立川市でも連携してやっていこうねという話は、昭島市長とも話をしてはいるんですが、そういったことも一方であったりする中で、地域の皆さんがどういうまちを望むのか。

ただ、それが将来を見据えてどういう方向性があるのか、どのぐらいのレベルの部分に抑えていくのがいいのかということ、全員が全員一致をするということは、なかなか何かをするときってないと思うんです。ただ、いかに最大公約数を得られるのかという部分での話がうまくつけば、私としては、そういう用途地域の見直しだとか、そういったこと

も、ちゃんと手続きを踏んだ上であればオーケーなのかなというふうに思っておりますので、また場所を変えて、地域の方たちともそういった、西砂、一番町地域のまちづくりについて、本当の建物的なことについてどうしていくのかという話は、一度ゆっくりお話しさせていただければなというふうに思っています。よろしいでしょうか。

(参加者)

ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございます。

お時間も迫ってまいりました。あとお一人、お二人というところにさせていただきたいと思えます。

(市長)

4名いらっしゃるので、質問だけ全部お聞きをした上で、一括して答えるという形でのよろしいですか。

(司会)

必ずお一人お一つだけということをお願いいたします。

(市長)

ごめんなさい、時間が。

(司会)

すみません、申し訳ございません。

(市長)

またやりますので。

(司会)

先ほど手挙げていただいた方、もう一度手を挙げていただいて。

(市長)

1、2、3、4、5名ですか。

(司会)

ではそちらの、前の方。

(参加者)

今、昭島物流センターの交通の問題が、今ここで、この会議で一回も出なかったといたら、後で相当怒られんじゃないかと思ひまして、私、あえて物流センターの、西砂小学校のこの交通問題を、ぜひひとつお願いしたい。

この前、何回も説明会ありますけれども、頭山議長とか、上條さんとか、地元の議員さんたちも参加していただいておりますけれども、西砂としては、道はそんなに長くないんですけれども、すごいところがありますんで、ぜひひとつお願いしたいなというふうに思っております。

(司会)

では御質問だけ、まずお聞きしますので。

(市長)

あと、後ろの方。

(司会)

お願いいたします。

(参加者)

今回、無作為抽出で参加しています。

私のほうから子育てについてなんですけれども、立川市のほうで産後ケアやっていると  
思うんですが、ちょっと手薄いなと今回感じていまして、昭島のほうが西砂なのですごい  
近いんですが、乳腺炎になりかけたときにケアに行ったら、昭島の方だったら無料だった  
のと言っていて、そうなんですかと聞いてみたんですけれども、昭島のほうだと乳腺  
炎の予防のマッサージであったりとか、あと、産後でお母さんが寝られなくて、疲れてし  
まって、そういった施設に泊まるとかも1泊2日3,500円。立川市だとすごい審査が厳しく  
て、旦那さんが働いていて、自分、ずっとワンオペで、頼れる人がいなくてとかいう申込  
みをすごいたくさんして、認められたら1泊2日6,000円、2泊3日9,000円、3泊4日  
12,000円で使えますとか、そんな感じだったと思うんです。

ただ、うち、主人も育休取っていますけれども、旦那さんがいても、結局夜見ているの  
って母親なので、旦那がいるとかいないとか、あんまり関係なくて、昭島の人羨ましいな  
って、正直かなり思ったので、産後ケアに力入れていただけると、これからママになる方  
はうれしいと思います。度々出ていましたけれども、子育て関係も昭島とか近隣地域と連  
携していただけると、多分西砂とか、その辺のエリアのお母さん、結構孤立している方多  
いと思うんです。イベントとかサークルありますよといっても、全部立川駅の周辺になっ  
てしまうんで、こんなちっちゃい子を連れてあんなとこまで行けないんで、昭島とか福生  
とか、その辺りと連携していただけると、お母さん孤立しにくくなるのかなというのは今  
回思いました。

以上です。

(司会)

ありがとうございます。

そして、そちらの方、3人目、お願いいたします。

(参加者)

ありがとうございます。私も同じように子育てのところの御質問になります。今お話し  
いただいたように、産後ケアについてなんですけれども、訪問型について、立川市は次年  
度から行うということだったんですが、こないだおうちに届いた広報の中では特に、書面  
の関係もあるのかなとは思ったんですけれども、実施についての内容が書いていなかった  
ので、その状況というのがどうなっているかということと、あと、今の方もお話しされて  
いましたけれども、審査がとにかく厳しい。

近隣に支援者がいれば使えないという状況ですけれども、でも実際、パパが育休取って  
いても、御夫婦でとても疲れているおうちが多いです。それと、あと、近くに、市内にも  
祖父母がいたとしても、就労していたり、介護をされていたり、あと、必ずしも関係性が  
いいとは限らないんです。そういった状況も含めて、希望される方が使えるような産後ケ  
アの実施というのをお願いしたいと思います。

もう一点だけ、すみません、今回、「立川市子育て／健康複合施設（仮称）」ができます  
けれども、そこで乳児健診が始まった場合、本当に西砂・一番町地区というのはかなり遠  
方になるんです。そこに行くために電車だったりバスを使って、わざわざ小さなお子さん  
を連れて行くというのはとても負担です。なので、例えばですけれども、市役所の一つの  
フロアを使って健診を、月に2回ある中でも1つだとか、時間帯をちょっと変更して、そ

ういったところでも行えるような形をつくっていただけたらと思います。

(司会)

ありがとうございます。

続いて1列目の方、お願いいたします。

(参加者)

今日すごくたくさんおいでになっているので、酒井さんに期待が大きいのかなというふうな気持ちがあります。

今日はこんなにたくさんおいでになるとは思わなかったんで、3点なんですけど、1点ということですので、3点の内容だけお話しすると、先ほど西砂町の方から出た物流センターの問題のことと。

(市長)

はい、G L P。

(参加者)

それから、能登半島地震とかあり、やはり防災体制を、これから立川市としてどうしていかれるのか。特に、能登半島みたいにはならないと思いますけれども、水の問題がすごく深刻だなと改めて思った次第で、そのことと、もう一つが教育問題なんです。教育環境問題というんでしょうか。

西砂町は今、猛烈に新しい住宅が建ってしまっていて、多分若い方が多く、新しく住まれていると思うので、西砂小学校の児童数が物すごく増えているそうです。プレハブというんですか、増設施設で何とか対応しているような形になるんですけども、学校のほうはともかくとして、そういった子どもたちが地域で遊ぶときに、遊ぶ環境として、いろんな公園はあるんですけども、かなり狭いし、制限が、特に私は孫を持っているんですけども、男の子なので、ボール遊びがしたい。ところが、そういうのは基本的に禁止だみたいな形になっている。その辺、何とか対応していただけないかなと。

西砂町ですので、昭島市に「昭島市エコ・パーク」というのがあって、あそこは物すごく広くて、ボール遊びもできる、野球なんかもできるような施設なんですけれども、予算が大変だということですので、この辺にできるかどうか分かりませんが、私の頭の中で考えられる方法は学校の校庭だと思うんですけども、西砂小の場合は、平日は、放課後はもうシャットアウトなんですよね。というふうなこともあるので、その辺の活用も含めて御検討いただければというふうに思います。

(司会)

ありがとうございます。

では5人目の方、お願いいたします。

(参加者)

私、立川の相撲連盟に所属してしまっていて、立川練成館で指導している者です。その絡みで一点お願いがあります。一昨年、道場、立川練成館の建物自体は老朽化対策で修繕していただいたんですけども、本当に側だけで、中の備品、パイプ椅子であったり、中の部分が一切更新されなかったんです。そうすると、中の椅子、今、皆さん座っていますけれども、このように座る椅子がもうないんです。少なからず自分が知る中で30年以上前のものを引き続き使っていて、市民大会とか餅つきとかで、お客さんにその椅子出すんですけども、まともに座れる椅子がないのが現状で、そういうところの更新を少しだけ目を

かけていただきたいというのが一つ。

あともう一点、こちらは金かかんない話なんですけれども、今、現状、立川市の屋内スポーツ施設、飲食禁止なんです。コロナ禍でできたルールなんですけれども、いまだに飲食禁止というルールが残ってまして、唯一熱中症対策で水は飲めるんですけれども、食べちゃ駄目というルールができています。これを早急に撤廃していただきたいと思っております、OBとかが差し入れ持ってきてくれた分、そういうのを子どもに配りたいんですけれども、今まではその場で食べてよかったのが、持って帰って食べているというのが現状なんです。餅つきとかでいろんなお客さん来てくれて、振る舞っているんですけれども、コロナ禍以降、持ち帰ってくださいというのが現状です。ほかのスポーツ連盟、結構守っていないところもあるんですけれども、当然その場でもらって食べたこと、いっぱいあるんですけれども、今はこうして写真撮られたらすぐ分っちゃいますので、一応厳密に守っている連盟ではあるんです。ただ、有名無実化しているルールなので、こちらのルールだけは直していただきたいということでございます。

(司会)

ありがとうございます。

(市長)

ありがとうございます。じゃあ、一通りお話をさせていただきたいと思います。

初めにGLPの交通の問題です。今、議会やっております、一般質問等でもいろいろと議論が出て、うちの市のまちづくり部長からも答弁をさせていただいて、また、GLPの地域説明会が行われて、そこに地域の議員さんや地域の住民の皆さん、また、市の職員も聞きに行っているんですが、なかなか立川市の問いかけに、例えば交通量調査をちゃんとしてくれということに対しても、真摯にお答えをしてくれていないという状況にあるというふうに聞いております。

このような点については議会でも答弁をしておりますけれども、先ほども申し上げたとおり、昭島市長とも話をしている、やはり立川にとっては何といても交通対策で、宮沢通りの問題もありますし、また、あそこの交差点の問題だとか、西砂小学校の通学時の問題など、交通規制等がどういうふうに見えるのか。

私も都議会議員のときに警視庁のほうには、「子どもの通学時間帯ぐらいトン規制、10トン車駄目とかという、時間で規制というのはできないもんなんですかね」という話を、警視庁の交通部のほうに問い合わせたことがあって、警視庁の中では、一応制度としてはできるそうなんです。なんだけれども、とはいっても、そこをすると、今度はほかのところに流れていってしまったりということで、要は全体を見なくちゃいけない中で、ここだけやればオーケーという話でもないから、実態としてはなかなか難しいと。制度はできるんですけれども、実態としては難しいという話でした。

なので、搬入だとか、そういった部分についての本当に実態、どういうふうな量になるのかということは粘り強く、昭島市と立川市でも連携をしながら、地域の交通問題については事業者に対して投げかけをしていく、要請をしていくということなのかなということで、その部分については私も重要な問題だと思っております。市としてもそのように捉えておりますので、その部分については両市提携の中で進めていきたいというふうに考えています。

次に子育てに関して、お二方から産後ケアについて、今後訪問型ということで、ただ、

その一方で使いづらいというお話で、最初の方からは乳腺炎という話も、うちも、僕も、今55歳なんですけれども、45歳で子ども初めて授かって、50歳で2人目を、まだ小学校4年生と5歳児の父親なんです、55にして。孫のような子どもの子育てをしているんですけども、やはり何だかんだいっても、僕も、妻が仕事していたりするんで、都議会議員のときには子どもを、要は夜の会合とか何とかで、大丈夫そうなところには、息子のときには連れて行ったりということで、一応子育てはシェアをしていたんですけども、今は妻からとっても愚痴を言われておりますが、そういった中で、やはり夫がいてもなかなか、最後は子どもってママなんですよね、父親の立場からいうと。子どもに泣かれて哺乳瓶に一個一個ミルクを詰めてやった経験とかも、それはそれで楽しく自分の中ではやっていたんです。

あと、おじいちゃん、おばあちゃんがいても、必ず関係がいいとも限らないという中で、昭島市の制度がとっても使いやすいということなので、その部分については、予算としては来年度、訪問型ということでスタートをしますので、急に変えるというわけにもいかないんですが、来年度運用していく中で、実際に立川市の産後ケアのこととか、そういった部分について、大変広報が分かりづらいということで、広報の仕方、利用しやすい制度になるように。

また、実態として、立川市の制度自体が金額の面、あるいは審査の面、そういった部分で、お隣の市と比べて使いづらいなということがあったら、それは僕としても本意なので、なるべく、近隣市よりはというのは難しいかもしれませんが、引けを取らないような形での使い勝手になっていけるように、少しずつかもしれませんが、バージョンアップは図っていきたいというふうに思っております。それは逆に僕がよく分かっていなかったことなので、教えていただきましてありがとうございます。今後のいろいろと庁内で話す材料にしたいと思います。

あと、乳児健診の件、そう言われてみればそうだなという。ただ、これもいろいろと、広聴はがきとかでいただいたときに、今、午後の時間じゃないですか。僕も連れていったことあるんですけども、息子のときに、1歳6か月とか、いろいろ健診のタイミングってあるじゃないですか。広聴はがきでいただいたのは、大体午後の、ちょうど子どもがお昼寝する時間というので、これをせめて午前中に変えられないのかなというお話をいただいたんですけども、今これを担っていただいているのは、立川の確か共済病院さんを中心として、立川市の医師会の先生にお願いをしているという中で、その先生たちの空き時間の中でやってもらっていると。実際に午前中で、子どもがお昼寝の前にとかというのはなかなか難しいと。

もうちょっとフレキシブルにといっても、先生たちのお休みのときに狙っている関係上、立川市だけで単独でできる話ではないので、ただ、場所の部分については持ち帰らせていただいて、確かに今まで健康会館、あそこもちょっと不便といえば不便で、車もあんまりとめられないし、集中しちゃうと、周りにコインパーキングもあんまりないじゃないですか。不便だなんて、そういうところは少し南のほうに行ったときのほうが解消されるのかなと、車で来られる方に関しては。ただ、とはいっても、そこまで連れていくということから考えると、市役所なり、あるいはこういう場所であったりとかというところは、検討すべき課題なのかなとも思いますので、子育てと健康・医療のほうの担当のほうと話をし、そういうことが、お医者さんあつての話なんですけれども、できるかどうか考えさせ

てください。ありがとうございます。

それと、あと、G L Pの話は先ほどお話をしました。能登半島の震災。今、先日パブリックコメントを求めました地域防災計画の修正は、先日、立川市の地域防災会議の中で了承されましたので、今後それで一旦は進めていくんですが、令和6年度から7年度にかけて、能登半島でのこういう震災の状況というの、だんだんまた状況が分かってくるでしょうから、その辺りを踏まえた上で、防災計画の見直しも図っていききたいというふうに思っています。

そういった中で、水の確保の問題では、これもさっきの市議会の一般質問の中で、東京都の水道局としては砂川浄水場が応急給水場ということで、あと、それぞれの避難所が給水タンクは設けていると。それ以外に、柴崎であったり、栄であったりとかという各浄水場、震災が起こってしまったときに、水ってちゃんとポンプアップできるの？ という質問があって、それについては一応、非常用の電源は備えているということで、あくまでも水の給水とか何とかというのは、今、東京都水道局のほうに一元化をしておりますので、東京都とも調整をしながらなんですが、水道、上水のほうよりも、より困るのは下水のほうだという、トイレの問題について、昨日だったかな、一昨日だったかな、御質問いただいております。その部分についても併せて、能登半島の状況を踏まえながら取り組んでいきたいというふうに思っております。

また、教育環境、西砂小学校、確かに今、本当に住居が増えて、子どもが一番多い学校です。来年度の中では、学童保育が手狭になって、「放課後子ども教室くるプレ」をやるのと併せて、学童保育は学童保育としての役割があるので、これを改築をするという、そういった対応は今、予算の中でも計上して検討しております。

また、子どもの遊び場、ボール遊び。本来の立川市の公園の規定上は、小さいお子さんが保護者と一緒に、危なくないゴムボールを使うことというのは禁止されていないんですよ、実は。なんだけれども、苦情が来るから、面倒くさいから一律駄目と言っちゃっているだけなんで、まずはそのこのルールをちゃんとしていきたいということと、あと、とはいっても少し、僕なんかの子どもの頃も、学校終わって、その後家にかばん置いたら、僕は第二小学校だったんですけども、二小の校庭行って、バットとボール持って遊んでいて、学校のガラスを割っちゃって、教頭先生に怒られたとかという思い出もあるんです。

だから、くるプレやっているところとかは、その子どもたちの、あくまでも学校の校庭を自由に開放するか否かというのは、学校長の判断によるところが多いので、僕なんかはどここの学校も、第二小学校なんか開放していますから、そういった形で遊んでもらうのが一番いいのかなって。公園とかに関しても僕は広げていきたいと思っているんですが、長野の例があるじゃないですか、行政としては消極的にならざるを得ないところはあるんですけども。

僕の感覚の中では、まちで子どもの笑い声だとか、ある意味、奇声だとか、時には泣き声、いじめられて泣いているのはよくないんですけども、そういった声が聞こえないまちって、あんまり僕、健全なまちだと思わないんですよ。そういったとこで、公園で子どもたちが少しでも遊んでもらえるような環境をつくっていききたいし、校庭の利用等についても、これは校長先生の判断にはなるんですけども、そういった形で促していききたいというふうに思っております。

最後に備品の整備、中見させていただきます。見させていただいた上で、僕も相撲連盟の餅つきとか、都議会議員時代、行かせていただいたことがあるので、そういった備品等々で、あまりにも老朽化がひどいものについては変えていくことも検討していきたいと思っておりますし、また、飲食禁止については、こういった立川市の大枠としては、学習館は駄目、学習施設はオーケーとなっていて、それ以外のスポーツ施設等について、コロナ禍で禁止をしていたところに関しては、昨年から5類になっているので、持ち帰らせていただいて、スポーツ振興課のほうと話をして、過去、従来、立川市のルールの中では飲食、別にオーケーだと言っていたところで、コロナを理由にして駄目だということになったものに関しては、もう元に戻したほうがいいんじゃないかという形で対応をするように検討させたいと思います。

(司会)

ありがとうございます。

(市長)

一通りお答えをしていると思いますが。

(司会)

たくさんの御意見、御提案をいただきましてありがとうございます。終了予定時間を大幅に過ぎてしまいました。ここで最後に、市長の酒井より閉会の御挨拶となりますが、よろしく願いいたします。

### 3 閉会の挨拶

(市長)

すいません、皆様方にはまだ御質問をしたい方、いろいろと市長の意見を聞きたいという方、多くいらっしゃると思います。私も可能な限り、いろんな、今聞いていていただいたように、おしゃべりなもんですから。ただ、皆さんからいただいた御意見の中で、今、現行で立川市で進めている事業は事業として、市の職員が現状の立川市を把握をした上で取り組んでいただいているものもあります。そういった中で、ただ、それが必ず僕は、それで終わりという話ではなくて、いろいろと実際に新しい事業を進めていっても、それがいいものなのかどうなのか、市民にとってのどういうふうな使い勝手なのかということは、絶えず見直しをしていく必要があると思っています。

私が新しい予算をつくったときに、市の職員の皆さんにお話をしたときには、立川市は予算をつくってこんなサービスをしていますというので終わりじゃ駄目なんだと。何か考えるときには、市民の側にとってこの事業を、全てが御希望にかなうわけではないけれども、市民にとってどういうベネフィット、利益を得ていると感ぜられるのかという、民間企業であれば当たり前の話で、お客様感覚で、別にお客様を神様だとは思ってないんですけれども、要は、何かの事業をやるときには、そこに市民の、この事業をやったらどう市民の笑顔が見えるのかなという、市民が笑顔になることを想像しながら、市民の側から見たらこの制度というものは使いやすいのか、使いにくいのかということ、これは絶えず見直しをしながら進めていくべきだし、今、今日現在、この制度が必要だと思ってやったとしても、5年後、10年後には必要じゃないと、もっとほかのことのほうが、限られた予算の中ではいいということもあるかもしれない。

そのときには、別に私が今言っていたり、私の政策の中でも、もっといい政策があるん

だったら、それは別に考え方変えることも、僕の中では、全然そこは頑なになる必要は全くないと思っておりますので、ぜひ地域の住民の皆様方のいろんなお声をお聞かせをいただきながら、その中で、皆さんが立川市、これも七中の生徒さんたちに言ったんですけれども、将来、立川にできればずっと住んでほしいんだけど、立川なんかにもってちゃ駄目だと、立川から飛び出て世界を渡り歩くような、そういった大人になってほしい。

そのときに、今の私の市長としての目標は、今の子どもたちが世界に出ていったときに、自分の母国は日本である、でも、日本だけれども立川というところで生まれ育った、立川が自慢なんだと言ってもらえるような市政を、私の市長就任中にはしていきたいなというふうに、子どもたちにそういうふうに、将来的に、「どこから来たの」といったら「立川から来ました」と。東京ではない、立川からだと言ってもらえるようにしていきたいというのが、私のささやかであり壮大な夢でございますので、そういった思いを持って市政運営を図っていきたいなというふうに考えております。今後とも皆様方のいろんな御意見、頂戴をできればと思います。

本日は大変限られた時間の中、皆様方から私にもいろんな気づきをお与えをいただきましたことを感謝申し上げます、結びの言葉とさせていただきますと存じます。

この後、本当は残って、もうちょっと話をしている場面もあるんです、時間があると、学生さんたちとか。夜だったら、もうちょっと話そうよって。ただ、この後、若葉会館で若葉町の文化祭なるものが行われておりまして、そちらに顔を出してから、今度、市役所で1時半に、同じような会を開催をさせていただきますので、終了後はすっといなくなるかもしれませんが、つれない市長だなというふうに思わないでいただければなというふうに思います。本日は大変ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

(司会)

それでは、これにて「市長と語ろう！」を終了させていただきます。配布いたしましたアンケートを御記入いただきまして、あちらの入り口に設置されておりますアンケート回収ボックスに御提出をよろしくお願いいたします。本日はたくさんの方の大切な御意見、御提案いただきましてありがとうございました。

(市長)

どうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございます。市長、この後もよろしく願いいたします。

— 了 —